

## 谷川岳雪洞訓練

報告者：K.U

期 日：2016 (H28) 年 2 月 27 日～28 日

メンバー：K.U 他 6 名

〈コース〉

川崎市山岳協会主催の谷川岳冬山技術研修会の訓練プログラムに沿って活動。

2/27：雪洞構築（テント設営）、谷川岳登頂

2/28：技術研修会

2 月 27 日

前泊の先発隊は始発のロープウェイにて天神尾根へ。後発の 3 名は関越道渋滞のためだいぶ遅れて 11：30 に入山。

雪が少なく雪洞構築は一旦中止し、橋先発隊、他の山岳会メンバーは、谷川岳登頂へ向かったとのことで、I とあとを追うことにした。

S さんには、今回は膝のこともあり大事をとってもらいました。避難小屋あたりで、下山してくる O さん達と合流し山頂へ向かう。今年はオキの耳までトレースばっちり初めて両耳に行くことができた。避難小屋で少し休憩し、15 時ころテン場に戻った。

その後は O 料理長の山菜てんぷら、Y さんからの蛸いか畳干に、持ち寄った日本酒で盛り上がった。

2 月 28 日

7：30 テン場撤収の号令を受けて、ほぼ定刻に出発。スキーゲレンデ脇の樹林帯にて、技術研修会が行われ一緒に参加した。

内容は以下のとおりです。

①緊急時の対応(各会分かれてビバーク



構築の練習、各会から成果発表、Q&A)。

橋チームは 3 人くらい入れそうなサイズのブルーシートバージョン、1 人サイズのツェルトバージョンをいずれも L 字型に掘って構築。スコップ、ピッケル、樹木を支点に屋根を施しました。

他の会からは、(1)屋根のツェルトが中央に寄らないようロープにプルージックしたもの、(2)長方形の穴(上から見て)を掘りストックをブリッジさせ T 字にピッケルを置いてその上にツェルトを被せたもの等、特徴あるビバーク構築方法が紹介されました。

②雪崩対策技術(ビーコン捜索、掘り出しシミュレーション)

雪崩の分類、メカニズムについて説明がありました。つづいてビーコンの電波特性、

その特性に応じた埋没者特定の方法について



て説明を受けました。その後、ビーコン動

作確認を行い、搜索体験を行いました。

続いて掘り出し訓練は、“V字コンベア”を行いました。位置を特定したら埋没者の真上から掘ってはダメで搬出を考慮したシステムです。特定位置から2mほど下方から目標へ向かって掘り下げるのが肝心で実際にやってみるとなるほどって感じました。

訓練では6人チームを組みましたが、実際はもっと少人数の場合が多々あるので、今後そういった人数での実力を確認しておくのも重要と考えます。

